

# 日記2004年

ホーム

野鳥を学ぶ

自然を学ぶ

リンク

フィールドノート

サイトマップ

1/1 新年の初鳥見は、恒例の「伊豆沼 初日の出&マガンの飛び立ち」。二工区堤防に立って数万羽の群れを見渡すと、ハクガンの姿も見られた。最初の飛び立ちは、6時45分。太陽が顔を出さないうちに飛び立ってしまうのが冬。しょうがないか・・・。

初日の出は7時ごろ。大きくて赤い太陽が昇ると同時に、残っていたガンたちが一斉に飛び立った。今年は、どんな鳥たちに出会えるだろうか。

1/10 7日(水)に、「岩手県一関市にカナダヅル！」の情報が飛び込んできた。翌日はあいにく始業式。週末は用事があったため、半ばあきらめていたところ・・・運良く数時間だけ動ける時間ができた。行くしかない！ということで、車を飛ばして一関市へ。現地にはすでに、工藤ご夫妻がいらっしやっていた。さすが・・・(^)

プロミナでじっくり観察後、デジカメをセットしてデジスコ開始。ち・ちかい・・・近すぎる・・・用事の途中とはいえ、F5を持ってこなかったことを後悔しているところへtoppoさん登場。COOLPIX 4300からコンパクトフラッシュを抜き、キャノンEOS10D+EF600に挿入して撮影させてもらった(右の写真)。 toppoさん、ありがとう！m(\_)\_m



やっぱり一眼レフ+超望遠はいいなあ・・・。なんとと言っても”動き”が撮れるし、ボケ味もいい。ちなみに[デジスコ写真はこちら](#)。

1/12 ニコンF5の「ガガガッ」というシャッター感が懐かしくなり、500mmF4Pを付けて内沼へ。2羽のオジロワシは遠すぎるため、あきらめてデジスコ撮影。100m以上離れた個体もこの通り。プロミナの性能と、フォトタッチの威力に脱帽である・・・。でもやっぱりF5のシャッターを切りたい。そう思っているところへ、願ってもない被写体が・・・。オナガガモにまじったハマシギである。久しぶりの銀塩だが完全に腕がにぶっている。足元を走り回る動きについていけないのだ。結局フィルム1本を全部使ってしまった。それでも一応手ごたえはあったので、満足して帰宅。

1/25 持つべき友(失礼か・・・)はやっぱりtoppoさん！？河北新報に「サカツラガンが5年ぶりに蕪栗沼に飛来」というニュースが載ったので、仙台への所用の帰りに立ち寄ったのだが自力で全然探せない・・・。それもそのはず。蕪栗からはるか東の豊里町に在るとのこと。電話をかけて途中でおち合い、先導してもらった。カナダヅルに負けず劣らず警戒心の弱い個体で、デジスコでははみ出してしまう。またもやF5を持ってこなかったことを後悔してしまった。それにしても、toppoさんはすごい！！なぜ・・・なぜ蕪栗からこんなに遠くにいる1羽を探し出してしまおうのだろうか・・・。



2/1 有意義な2日間だった・・・

グローバル・スクール・プロジェクト主催の『第4回子ども環境学会』に参加した。勤務校の子供たちが実践発表を行ったというの大きな理由だが、そこに集うたくさんの方々の話が聞きたい・・・というのも理由。北海道、秋田県、福島県、東京都、埼玉県、兵庫県、福岡県、岡山県、そして宮城県。実にたくさんの方々が、諸団体の代表として、また個人的な参加として宮城県若柳町に集った。大人も子供も共通の視点で物事を考える・・・。素晴らしいことではないか。何かせすにはいられない・・・。そんな気持ちにさせる刺激的な2日間だった。



2/29 第3回ゼニタナゴ復元プロジェクト『ブラックバス駆除説明会』に参加した。

伊豆沼では、ブラックバスの増加に伴い、魚類の漁獲量が10年前の1/3以下に減少している。この影響は、貝類や鳥類を含む水域周辺の生態系全体に及んでおり、その対策が急がれていた。宮城県内水面水産試験場が



親魚捕獲用の人工産卵床を開発して実験した結果、大きな効果を上げたため4~6月に大量設置することになったのである。

ブラックバスは、日本には天敵がいらないために増加の一途をたどっている。また、親魚が稚魚を守る習性があるため、繁殖率も非常に高い。

この試みは、ブラックバスの増加に悩む諸団体から、全国規模で注目を浴びる試みになることだろう。

4/26 久しぶりに…本当に久しぶりにフィールドに出た。いや、久しぶりにフィールドに1時間以上いた…と言った方が正確だろう。

蕪栗についてすぐ、アマツバメが低空を飛んできてあいさつをしてくれた。強風の中を歩き出すと、右から左からさまざまなさえずり。

ウグイス、ホオジロ、ホオアカ、ヒバリ、そしてアオジ。沼の中では、至近距離でウズラシギ4羽とコチドリがお出迎え。上空をケリやヘラサギ、ハヤブサが飛び、ホオアカとツグミがすぐ近くにいる。夏鳥と冬鳥が入り交じるこの季節は、見ていて本当に楽しい。いつの間にか風がやみ、越流堤に寝転がってお昼寝。太陽がざらざら痛い、ときおり吹く風が心地よい。やっぱり蕪栗は最高！

5/22 見た！とうとう見た！！何と気品のある白黒コントラストだろう。何と芸術的な嘴の曲がり具合だろう。陸に上がるとけっこう太ってるって？そんなことはどうでもよい。とにかく宮城県にソリハシセイタカシギが来てくれたことが感動なのである。何度夢に出てきたことだろう。何度図鑑を見ながらため息をついたことだろう。H君…もうあなたが住んでいる方角に足を向けて寝ることはできません。

【この日のシギチ観察種】6:10~9:00もり

ソリハシセイタカシギ1, コチドリ1, キョウジョシギ2, トウネン+, ハマシギ5+, コオバシギ1夏, キアシシギ2fl., チュウシャクシギ3

5/29 車にMTBを積んで蕪栗沼に行ってきた。左手にMTBのハンドル、右手にスコープを取り付けた三脚といった格好で1周。さっきまで飛んでいたクロハラアジサシがいなくなったと思ったら杭の上に止まっているではないか。チャンス！とばかりに長靴であぜ道を歩き出す。草の陰にいたが何とか証拠写真をおさめることができた。土手を歩いているとシギが1羽遠くに降りた。アオシかなあ…とのぞいたスコープに見えた鳥は…アカアシシギ！しかも夏羽！！冬羽は見たことがあるが、脚の赤さがハンパではない。次列風切が白いことを確認してフィールドノートに記録。ああ…胴長を持ってくればもっと近づけたのに…。この日、胴長君は数日前に伊豆沼のマコモ植栽に使ったため、きれいに洗って玄関先につるしてあったのだ。残念…。

6/6 伊豆沼・内沼ゼニタナゴ復元プロジェクト『バス・バスターズ』に参加した。毎週日曜日と水曜日に「産卵チェック」「稚魚捕獲」「親魚捕獲」が行われているのだが、所用があってなかなか参加できなかった。おそらく今回が最初で最後になる予感…。参加者全員の成果は以下の通りである。

- ・人工産卵床29か所に産卵確認
- ・8780g(推定17万~20万尾)の稚魚捕獲
- ・2尾の親魚捕獲(ともにオス、38cm, 780gと28.6cm, 400g)



帰りに農道を走っていたら、コチドリのひな5羽が道の真ん中にいた。車でひきそうだったから動くまで待つこと30分…。やがてちょこまかと去っていった。この子達は孵化して半日後にはもう自分で餌をとるそうだ。こんな小さな体で一生懸命生きてる姿を見ると無事に独立してくれることを願わずにはいられない…。

7/24 毎日暑い…。気温は30度をこえていないのだが湿度が高いのである。それでも時間があればフィールドに出るようにしているのだが、すぐに撃沈…。伊豆沼の駐車場に車を止め、エアコンをかけて地球温暖化に貢献していたら、大型のトンボが目の前に止まった。ウチワヤンマである。腹にある大きなウチワが特徴で私にも識別できる。けっきょく、この日の撮影はこのウチワヤンマのみ。蕪栗にも行くつもり

だったが、あっさりとおきらめてしまった。ガンの季節まであと2ヶ月。やはり私には、暑さに耐えるより寒さに耐えるほうが性に合っている。早く…早くすずしくなしてほしい…。



7/25 「田んぼってすごい！」というメニューを作った。田んぼはすごいからである(^\_^)今年度から月2回、『田んぼの学校』に関わっている。カエル、魚、底棲生物、クモ…なんて楽しい調査なんだろう。子供たちはみんな生き生きとしている。講師陣も、みんな熱い人ばかりだ。鳥見と違って生態系の底辺を見る田んぼの生き物調査は、自然に対する見方・考え方を根本的に変えてくれた。

これからのキーワードは『ふゆみずたんぼ』である！！

9/5 ガン類渡来まであと2週間となった。今年は稲の生育がよく、石越町では稲刈りが終わったところもある。昨シーズンは、渡来初期に伊豆沼三工区でほ場整備をしているところに降り立ったが、今シーズンは作付けがされている。第1陣が飛来する頃、果たして稲刈りは終わっているのだろうか…。

そんなことを考えながら、今日も獅子鼻でシギチを見てきた。種類や数は少ないものの、降り立つたびに違う種類なのがおもしろかった。干潟が大きくなっている。コガモもやってきた(ついでに台風も…)。今、日替わりメニューの渡り鳥がおもしろい。

10/4 伊豆沼のガン類が日に日に数を増している。今までの情報を整理してみると以下の通り。

- マガンの初認…9月15日…Sさん(私が見たのは9月26日)
- カリガネの初認…10月1日…Uさん(私はまだ発見できず)
- ハクガンの初認…10月3日…chicksさん(私が見たのは10月4日)



私は一番が好きである。だからはっきり言ってくやしい…。いや、まだシジュウカラガン情報が無い。よしっ！がんばるぞ！！

10/9 鳥見仲間のchicksさんからTEL。伊豆沼パトロールをしているSさんが「白いカモ」を見つけたとのこと。さっそく見に行った。すると…いましたいました。つぶらな瞳のカモが。最初はオナガガモかと思ったが、どうも顔つきが違う。写真を拡大してみたが、どうやらヒドリガモの白変個体のようなのである。初列風切が黒く見えるのは愛嬌だろうか。



11/9 宮城県下一斉ガンカモ調査が終わり、職場に戻る途中のこと。伊豆沼三工区にハクチョウの群れがいた。いわゆる野生状態(?)で採食している姿がうれしくて、久しぶりにスコップをハクチョウに向けてみた。群れの中には、わらを焼いた黒いかたまりがたくさんある。すると…その1つが動くではないか!? 目を凝らしてよ〜く見ると…『うわっ！黒いツルだ!!』 急いで図鑑を出して種を同定。どうやら、ナベヅル成鳥のようなのである。それにしてもなんとという偶然だろう。あの時あの道路を通らなければ… あそこでスコップを覗かなければ…



聞けば世界中に1万羽しかいない絶滅危惧Ⅱ類(環境省)だとか。神様に感謝!

11/23 第7回たんぼの学校を開催した。今回の目的は、昔の道具を使った『稲こき』。『稲こき』とはいわゆる脱穀のことで、昔ながらの道具を使って子供たちに体験させた。この日は偶然にも、バスバスターズが築館町のため池で池干しを行っていたため、マイクロバスに乗って最初に見学。また、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの「自然体験講座」があったため、合同で『餅つき』も行った。と言っても、稲こきに時間がかかってしまったため、餅つきはすでに終わった後だったが…。 昼食のメニューは、あんこ餅、納豆餅、エビ餅、お雑煮、そして鮎鮓。諸団体入り乱れての昼食は、大騒ぎであった。



12/05 1泊2日で、「第4回 ふゆ・みず・たんぼシンポジウム」に参加した。のべ500人という大規模なシンポジウムで、ちょっとだけプレゼンをさせてもらった。[くわしくはこちらをごらんください。](#)

12/19 三工区のふゆみずたんぼに、マガンが降りている。この半年…生き物調査を続け、ふゆみずたんぼのよさを実感してきた。湛水を始めて最初に降り立ったのはハシボソガラスだった。次にオオハクチョウ。今では屋間にマガン、夜にオナガガモが利用している。(ついでに、セグロセキレイとハクセキレイ) マガンの行動は主に背眠と水のみ。今日は約1,500羽が利用していた。



マガンやオオハクチョウと同じ土を踏むのは、何ともいえない感動を感じる。最近では糞も踏んでしまうが、それはご愛嬌。臭くないのであまり気にならない。

マガンの糞は、長さが3cm前後。重さは、2g±といったところだろうか。ちなみに、ハクチョウの糞はとても立派。大きさは犬なみで、重さもマガンの約10倍ある。水鳥による施肥効果はまだあまり調べられていないが、その効果に期待したい。



初めて見た鳥(ライファー)たち			
カナダヅル	ソリハシセイタカシギ	アオバズク	ツツドリ
クロハラアジサシ	ハジロクロハラアジサシ	ナベヅル	ズグロカモメ